

年 組 名前 :

問1

次の文章の①から⑤に当てはまる言葉や数字を教えてください。

『小惑星探査機はやぶさ2は、小惑星①の砂などを採取し、約②グラムを持ち帰った。砂などの試料からは、③ともされる有機物の④が検出された。この確認は、⑤を解明する大きな手掛かりと期待される』

- ① .....
② .....
③ .....
④ .....
⑤ .....

問2

はやぶさ2は、いつ打ち上げられ、いつ小惑星に到着し、いつ帰還しましたか。

- ・打ち上げ : ..... 年 ..... 月
・到着 : ..... 年 ..... 月
・帰還 : ..... 年 ..... 月

問3

今後、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の研究に、あなたは、何を期待しますか。

.....
.....
.....

はやぶさ2採取 小惑星の砂にアミノ酸
生命の源 地球外で初

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の探査機はやぶさ2が2020年に持ち帰った小惑星りゅうぐうの砂などの試料から、「生命の源」ともされる有機物のアミノ酸が検出されたことが6日、関係者への取材で分かった。文部科学省によると、検出されたのは20種類以上。地球外にアミノ酸が存在することを初めて直接確認し、宇宙が起源である可能性を後押しする形。JAXAなどが近く論文を公表する。生命誕生の謎を解明する大きな手掛かりとなる

小惑星探査機はやぶさ2
世界で初めて小惑星から試料を採取して地球に持ち帰った探査機「はやぶさ2」の後継機。2014年12月に種子島宇宙センター(鹿児島県)から打ち上げられた。18年6月に目的地の小惑星りゅうぐうに到着。19年に2度着陸し、人工クレータを作ることにも成功。約1年半の滞在を終え、20年12月に試料を入れたカプセルを地球へ投下した。地球から離れ、別の小惑星の探査に向かった。

(2022年6月7日付 山梨日日新聞1面)

かるとなることが期待されている。
おむね地球と火星の間を6年の探査を終えて帰還。りゅうぐうの試料を入れたカプセルを地球に持ち帰ることに成功した。大きな科学的成果が期待される試料の分析はJAXAをはじめ東大、広島大など全国の研究機関が分担。各地の研究者が21年から、本格的な調査研究を始めてい

る。アミノ酸などは奈良岡浩九州大教授がリーダーを務める「可溶性有機物分析チーム」が担っている。分析は、試料が地球上の大気などに触れないよう注意して行われている。アミノ酸はタンパク質をつくる物質で生命に欠かせない。太古の地球でアミノ酸がどうやって生じたのかは分かっていないが、隕石からもた

らされたとする学説があり、地上で見つかった隕石からアミノ酸が検出される例もあった。ただし、アミノ酸が地上で付着した可能性もあった。

関連記事23面